



博士人材育成コンソーシアム  
Consortium for Career Development of Ph.D.

シンポジウム2023

# ブンケイハカセがつくる 新しいミライ

## THEMES

- 社会課題の中での研究実践
- 研究対象や関心の社会的価値の再認識・再発信
- 課題解決の経験
- 様々なステークホルダーとの協働

## DATE & PLACE

2023/12/11 MON.

※申込締切：12/4 MON.

東京外国語大学 府中キャンパス  
アゴラ・グローバル  
プロメテウスホール ★ハイブリッド開催

## TIMETABLE

### 1) オープニング 14:00-14:25

開会挨拶

林 佳世子 氏

東京外国語大学学長

御来賓挨拶

高見 暁子 氏

文部科学省

科学技術・学術政策局人材政策課

人材政策推進室長

コンソーシアム活動報告

中山 俊秀 氏

東京外国語大学副学長

### 2) 基調講演 14:25-15:25

(第一部)

大阪大学超域イノベーション博士課程プログラム

社会課題解決実践を通じた研究力の育成

松田 秀雄 氏

大阪大学超域イノベーション博士課程プログラム部門長

社会課題解決実践の経験から得たもの

山脇 竹生 氏 / 常盤 成紀 氏

株式会社 資生堂

公益財団法人 堺市文化振興財団

(第二部)

企業と大学の境界を超える-AIの社会実装に挑む-

中尾 悠里 氏

富士通株式会社富士通研究所AIトラスト研究センター

### 3) パネルディスカッション 15:50-16:55

15:50-16:55

先輩たちのキャリア経験から学ぶ

伊藤 寛了 氏

帝京大学経済学部国際経済学科専任講師

吉田 幸司 氏

クロス・フィロソフィーズ株式会社代表

保田 那々子 氏

帝京大学文学部日本文化学科助教

### 4) クロージング 16:55-17:00

16:55-17:00

閉会挨拶

鈴木 義一 氏

東京外国語大学総合国際学研究科長



mirai

多文化共生イノベーション研究育成フェローシップ

Multi- and Inter-cultural Research and Innovation Fellowship

国立大学法人東京外国語大学 MIRAI推進室

※お問い合わせは、「APPLICATION FORM」よりお願いします。

<https://forms.gle/fchrFMumC2F6yesZA>

APPLICATION FORM



# 研究の先に広がるミライ、考えます

**キャリア**という、なりたいものを決めてそこに向かって計画的に前進していく、といったイメージを持つかもしれませんが、実際はそのようなものとは限りません。研究者のように、「自分はどうか」「何を考えていたか」にこだわる人生はなおさらです。「ありたい自分」を生き続けられる場所は一つではありません。

おもしろい！好き！から始めた大学院での研究の日々。想像できる世界は大学に留まっていたかもしれませんが、しかし、世界が複雑な社会課題に直面する現在、社会の中では高度な研究経験と能力を身につけてきた博士人材が果たす役割への期待が高まっています。研究者としてのトレーニングが終わり社会にでたとき、研究は自己研鑽の文脈から、社会の中で求められ、引き受ける役割（仕事）という文脈に位置付けが変わります。**自分の研究活動が社会の中でどのような場でどのような役割を負うことになっていくのか、研究活動がたどっていくその旅の軌跡、それがキャリアなのです。**

大学院でのトレーニングを巣立った研究活動が通っていく場や役割の軌跡は想像する以上にさまざま。人の数だけ可能性は広がっています。その時に学生生活の中で身につけた多様な力がどのような武器になりうるのでしょうか？

**博士の活躍する場と役割の可能性**を探るシンポジウム。  
あなたの未来も一緒に考えてみませんか。

## パネルディスカッション概要

「研究に関わり続けたい」「研究を続けていきたい」。ただ、研究とのつながりを大事に生きていく道は一つではありませんし、研究の経験が活きる場も一つではありません。様々な仕事の中に問うべき課題があり、様々な職業の中に研究者マインドが生きています。また、大事にしたい研究とのつながりは人によって、人生のステージによっても変わります。

パネルディスカッションでは、研究が好きでい続けるという共通項を持ちながらも、様々な選択をして、異なった場で活躍している人文系博士修了者に集まっていただきます。みなさんの経験を伺いながら、**研究の何を大事にしていきたいのか、培ってきた研究力をどのように活かしていきたいのか、その可能性の広がりを考えていきます**。そして、その未来の視点から大学院時代にやっておきたいことを考え、共有していきます。